

長野県 火山防災のあり方検討会中間報告書（案）に関する
木曾地域での関係者との意見交換会実施結果

日時：平成 28 年 12 月 12 日（月） 午後 1 時～3 時

場所：長野県木曾合同庁舎 講堂

カテゴリ	内容	反映箇所
山小屋周辺、 登山道について の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジターセンターは総合的な施設で、大切。御嶽山は、ビジターセンターより上に施設が多いため、そこだけにならないように注意した方がいい。合目ごとの小屋でも情報がしっかり把握出来るのが望ましい。 ・VC は、登山口が立ち寄りやすく適切だと思う。そこが情報の拠点になりうる。そういったビジターセンターと、各山小屋との通信、ネットの接続について、もう少し深く、中間報告に盛り込んで欲しい。 （先進事例として富士山で 49 カ所に KDDI のシステムが導入されネット、携帯電話が使えるように環境整備をした。ビジターセンターにもこのような中継基地、増幅設備が整備されれば良いと思う。） ・ネットからとれる情報、火山情報が、ビジターセンターと各小屋の方が連携がとれることによって、信者さんにも、伝えることができる。登ってしまう方も、合目毎の小屋でも情報を知ることができたらいい。 ・6 合目にもマイカーで来る登山者に周知活動のための看板の設置、山頂駅舎の周りに看板の設置など火山の周知のための看板設置が望まれる。 ・正しい情報が、スピーディに伝わるようにしてほしい ・スマートフォンなどのデバイスと山小屋の連携なども考えてほしい 	<p>4 編 1 章 2（3） 施設利用者の特性 や施設同士の連携に ついて</p> <p>2 編 2 章 3（2） 「モノ」と「ヒト」によって 伝える</p>
御岳教信者の方々への情報 発信について	<ul style="list-style-type: none"> ・御嶽山は信者様が多く訪れる。信者様は登山者のような装備で登山していない。白装束に笠という軽装備で登山する。そう言った信者の方も多くいるため、ビジターセンターと連携して情報が発信される仕組みが必要だと思う。 ・御嶽山は、一般、普通の山と違って、御岳教の信者が登る山として特徴がある。7、8 月はたくさんの信者が登られる。信者さんは、ビジターセンターはよらない人たちである。神社、貢納との連携が必要であり、情報を個別に流す必要がある。ビジターセンターから情報を流していいし、同時に流すのもいいと思う。 ・信者の目的は一つで頂上に登ることなので、ビジターセンターによる必要がない。しかし、信者も、どこかで情報を取る必要がある。神社に協力してもらう必要があると思う。 ・神社、遙拝所、たくさんの施設がある。各施設にビジターセンターのような機能を持たせることが必要ではないかと考える。 	<p>2 編 4 章 4（1） 登山者、観光客に向けた 情報発信の方針、（3）現状の課題 と望ましい情報発信</p>
登山者の行動 特性に着目した 取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・登山者は早く登りたい気持ちが高く、ビジターセンターに寄ってのぞかせるのは難しい。それでも、山に対して様々な知識を持ってほしいと思う。 ・登山者の中には真夜中に登る人も、日の出から登られる人もいる。暗いうちから登る。そうするとビジターセンターでは 24 時間対応しないといけなくなる。 ・ドーム型のような小屋を作って、そこを通らないと登山道に行けないようにする。人を置くと大変だが、電気だけ通ってれば、パネルやテレビなどで火山性微動が何回とか、火山の事を周知することができるのではないか。 	<p>4 編 1 章 2（3） 施設利用者の特性 や施設同士の連携に ついて</p>
山岳遭難防止 対策協会やパト ロール隊との協 力	<ul style="list-style-type: none"> ・3 年前まで御嶽山も遭難する方が多かった。木曾遭対協でも年に 2 回ほど、登山口で登山指導など行っているが、ビジターセンターでは、火山だけではなく登山の心構えなども教えていけたらと思う。 ・本日のメンバーに遭対協のメンバーの名前が入っていない、これからは協力が必要だと思う。 ・玉滝、木曾の双方で、パトロール隊が火山についての情報発信してきた。こういった人材に協力してもらうことも必要だし、とても重要になる。 	<p>2 編 4 章 4（3） 現状の課題と望ましい 情報発信</p> <p>3 編 1 章 3 長野県での 制度創設について</p>
県や市町村をま たく情報の統一	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県、岐阜県両方から登る事ができるが、共通の同じ情報を流す必要がある。違う情報ではなく、同じ情報を伝達できる事が大切だと思う 	<p>4 編 1 章 2（3） 施設利用者の特性 や施設同士の連携に ついて</p>

<p>マイスターと山岳ガイド・自然ガイドの連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登山ガイドの試験の中に、火山マイスターの項目を入れる事ができると思う。 ・信州登山案内人の資格更新の時に、実地でも机上でも学習する機会を設けることはできる。 ・知らないガイドができないぐらいの仕組みにしておく必要がある。 ・焼岳とか御嶽など火山を案内する方には、座学で火山について学ぶ必要があるのではないかなと思う。 	<p>4 編 2 章 1 (1) (仮) 御嶽山マイスターの活用の方向性</p>
<p>マイスターによる教育関係者への普及・啓発について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育関係者の方も、火山の知識を伝えていくことが、災害を風化させないという事につながっていくのではないかなと思われる。 ・今年木曽、伊那の理科の先生方の合同研修で御嶽山に登った。登山道の残っている火山灰等を見て感じることもあったと話していた。教員に対し、マイスターによる学習の場を設けることや、そういった場を子ども達へ設けることが出来る教員の育成のためにも、マイスター制度を活用したい。 ・子供たちの教育も重要だが、教職員への防災教育も重要だと思った。 	<p>4 編 2 章 1 (1) (仮) 御嶽山マイスターの活用の方向性</p>
<p>マイスターによる子ども達への普及・啓発について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・王滝村は西部地震を体験している。西部地震の慰霊碑清掃を小学生から行っている。今までも地域の住民に災害について多くのことを学び、今回の噴火災害についても、遺族の方との交流があった。 ・子ども達は、ふるさとの誇りである山であり、防災や御嶽の怖さも学習している。 ・王滝を大切にしたい気持ちや誇りを大切にして、防災を考えていくことが大切だと思う。 ・小学生は遠足、中学生は学校登山がある。そのときに防災について学ぶ機会を作ることができる。 ・また、地域を知る総合学習の中で、防災の専門家の話を聞く機会を作ることができると思う。 	<p>4 編 2 章 1 (仮) 御嶽山マイスターの活用の方向性と見込める効果</p> <p>4 編 1 章 1 ビジターセンターとしての「役割」</p>
<p>その他のマイスターによる活動について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、全国から日本キャンプ協会主催で野外活動指導員の研修が御嶽山で行われた。御嶽山の火山にまつわる歴史や、火山の時の対応などを学んだ。火山の時の心構えを学ぶなど成果があった。 ・これからいろんな指導員などの研修に火山マイスターと共に、研究施設との連携の仕組みをお願いできればと思う。 	<p>4 編 3 章御嶽山における見直し</p> <p>4 編 1 章 1 ビジターセンターとしての「役割」</p>
<p>火山の研究機関等の連絡・連携について (情報発信)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に研究施設があって、観測データがリアルタイムでわかり、早く情報をキャッチし、安全登山が確保できればいいと思う。 ・研究施設が地元のできる事には、安心感がある。 ・また数字を並べられても、読み取れないので、住民と一緒に勉強していかないといけないと思っている。 ・御嶽の周りには、観測装置が多く設置されていると聞いている。身近なところに研究施設があり、研究や観測の成果が地元で報告いただけるとありがたい。 	<p>4 編 3 章御嶽山における見直し</p>
<p>火山の研究機関等の連絡・連携について (マイスター関連)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちにとっていいのではないかなと思った。 ・研究施設の先生方と接する中で、火山に対する人材が育っていったらいいと思う。勉強できる環境があればいいと思う。 ・しかし、住民、観光業者、地元とどの様に関わりを持っていくのか、具体性を持っていくことが大切と思う。 ・長野歴史館の坂本館長に本校で講演をしてもらった。木曽の誇りを教えてもらい、子供たちの木曽に住んでいる誇りを教えていただいた。 ・研究施設等でも是非、そのような話をしてもらいたい。 	<p>4 編 3 章御嶽山における見直し</p> <p>4 編 1 章 1 ビジターセンターとしての「役割」</p>